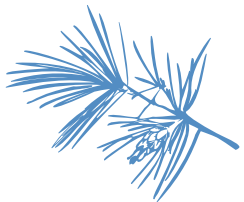


グリーン社会実現に向けたSH連携促進事業
信州の森フォーラム

もりぐらし

別荘事業活性化から始まり
地域連携により地域循環共生圏を目指すまで

2023年12月19日（火）



東急リゾート & ステイ株式会社

地域創造統括部

徳田 圭太



MORIGURASHI

TATESHINA

TOKYU RESORT TOWN

NAGANO JAPAN

本日のお話

1. 東急リゾート&ステイ株式会社とは
2. もりぐらしとは
3. もりぐらしの地域への展開
4. これからのもりぐらしが目指すこと



東急リゾート&ステイ株式会社とは？

TOKYU RESORTS & STAYS

RESORTは、9世紀から14世紀にかけて使われていた古フランス語の“resortir”に由来します。

その意味は「再び出かける」。転じて、余暇を過ごすための場所を指すようになりました。

STAYは、ラテン語の“stare”（英語で“stand”）から派生し、

「じっと立つ、とどまる」という意味合いを持つ言葉です。

お客さまに繰り返し滞在してもらいたいという想いを込めて、

私たちは「東急リゾート&ステイ」と名づけました。



私たちの取り組み

OUR BUSINESS

都市型ホテルから会員制リゾートホテル、ゴルフ場、スキー場、複合リゾートまで、私たちは全国各地で多彩な施設を運営し、ビジネスパーソン、ファミリー、外国人旅行者など、多様なお客さまに豊かな時間と体験を提供しています。

運営ブランド



東急ステイ
TOKYU STAY

自分らしく暮らすように——「住まいにホテルの機能をプラスする」という発想から生まれた、洗濯乾燥機やミニキッチンを客室に備えたホテルです。



東急ハーヴェストクラブ
TOKYU HARVEST CLUB

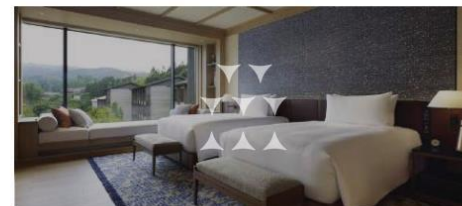
ただいま、と語るリゾート——東急ハーヴェストクラブは、別荘を持つ歓びとホテルで過ごす快適さをあわせ持つ、会員制リゾートホテルです。

運営事業



ゴルフ事業
GOLF RESORT

40年以上にわたるゴルフ場運営の歴史のなかで培ってきたノウハウを活かし、お客さまのゴルフシーンに合わせて、最良のサービスをご提供します。



宿泊事業
HOTEL

四季を彩る高原のパノラマから、森や清流を眺める温泉まで、個性あふれるホテルでそれぞれのシーンに合わせたプライベート空間をお届けします。



スキー事業
SNOW RESORT

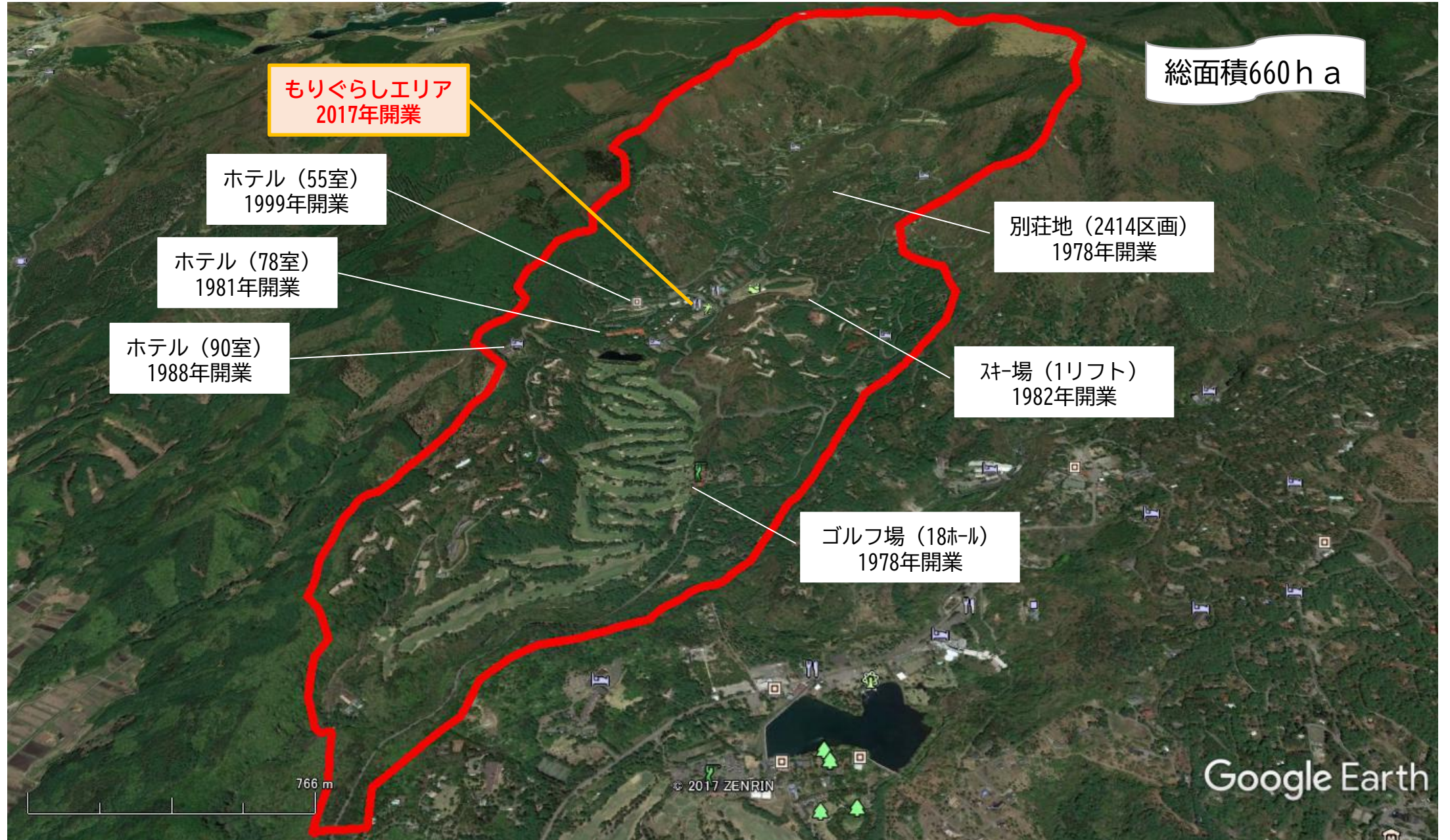
充実した施設とコースバリエーションで、誰でも楽しめるスノーリゾートを全国に展開。夏季シーズンのアクティビティも充実し、年間を通してお楽しみいただけます。



リゾート・その他事業
RESORT & OTHERS

「遊ぶ・泊まる・食べる」がひとつになった複合リゾート施設や別荘事業など、お客さま一人ひとりが快適で豊かな時間を過ごせる多彩なサービスを展開しています。

東急リゾートタウン蓼科



土砂災害被害状況 (2012年7月)

(1) 土砂の大崩落	タウン全体で14箇所(別荘3箇所、リゾートヴィラ7箇所、ホテル等共用4箇所)
(2) インフラ関係	道路陥没3箇所、汚水本管破損2箇所、ヴィラ汚水管破損2棟、温泉管破損1箇所、 ゴルフ場散水用水道破損1箇所、ヴィラ水道管破損1棟、水道関係破損2箇所
(3) 建物被害等	上記土砂の大崩落によりハーヴェストクラブ本館の鉄製駐車場倒壊、車両8台滑落、 別荘1棟完全倒壊、2棟半壊、土砂流入5棟、 ヴィラ建物内への土砂及び倒木等の流入2棟・5室等
(4) 河川関係等	からまつ池流入部の河川の大規模護岸浸食、その他河川崩落多数、 木造橋倒壊1箇所、橋基礎破損1箇所、からまつ池へ大量の石及び砂利の流入等
(5) その他	ゴルフ場に河川等からの土砂流入



もりぐらしとは？

■概要

2012年7月の集中豪雨によって、東急リゾートタウン蓼科では複数個所の大規模な土砂災害に見舞われました。タウン内の森林は戦後植林されたカラマツの人工林で、開発後の約40年、間伐等の保全措置がなされないまま、森の持つ本来の力が弱体化していたことが原因の一つとして考えられました。

私たちは将来にわたりタウンを持続的に運営していくにはこの蓼科の森を健全化する必要があると検討を重ね、森林資源を核とした「まもる」「つかう」「つなぐ」の、持続可能な地域循環のサイクルを立案し、2017年その取り組みを「もりぐらし」と名付けました。

その取り組みは基本的に、森林環境の保全を企業の社会的責任(CSR)としてのみ行うのではなく、事業活動を通じて社会的な課題の解決を目指す「CSV(Creating Shared Value:共有価値の創造)」の概念を重視し、事業として成立するからこそ持続が可能であると考えました。

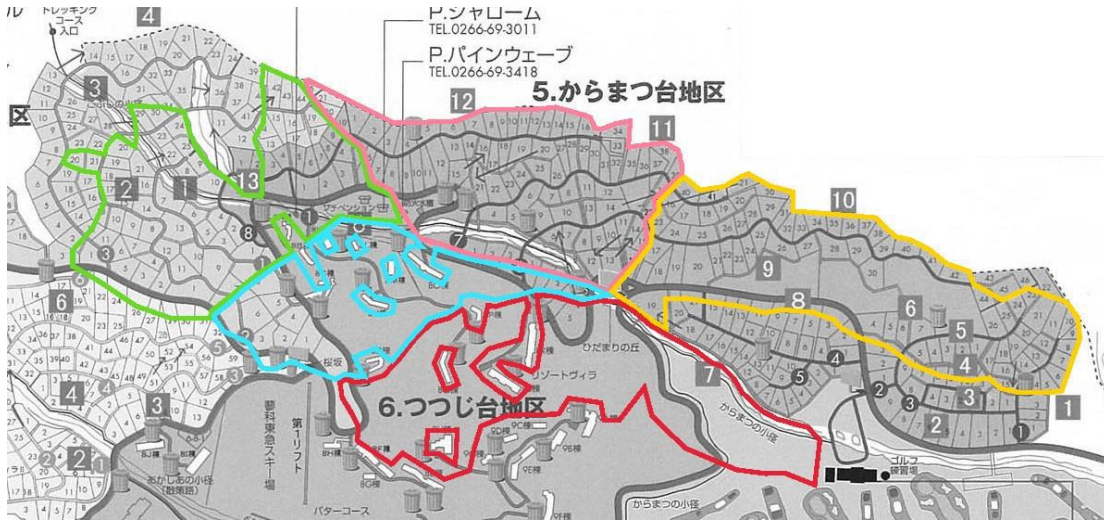
**森にきちんと価値を付加できれば、森は再び地域の宝、
未来に残すべき大切な資産になります。**



実施施策①「まもる」

■ 森林経営計画を策定

- ・ 林業経営体としての認定を受け、森林状態の現況を調査・把握し、中長期の保全施業計画を立てる事により、タウン内樹木の総成長量850m³の範囲で間伐を実施出来る事となった。



伐採時期	林班	小班	伐採材積
2018	106	い、へ	872
2019	106	ほ	497
2020	106	は	914
2021	106	に	760
2022	106	と、ち	872

・ 補助事業は、林野庁の「合板・製材生産性強化対策交付金事業」を活用し、素材の売り上げと併せて実質負担金無しで10.9haの間伐を施業できた。(施工金額：11,600,000円相当)

・ 2019年度より隣接の鹿山財産区直営の別荘地「鹿山村」に森林経営計画地を拡大する事が可能となり、保全間伐の範囲は5ha増大できた。(周辺展開)

★施業後の森林は、光差し込む美しい森林となり、作業道は今後、森の散歩道として整備し活用していく予定。



間伐後の森

間伐～チップング作業

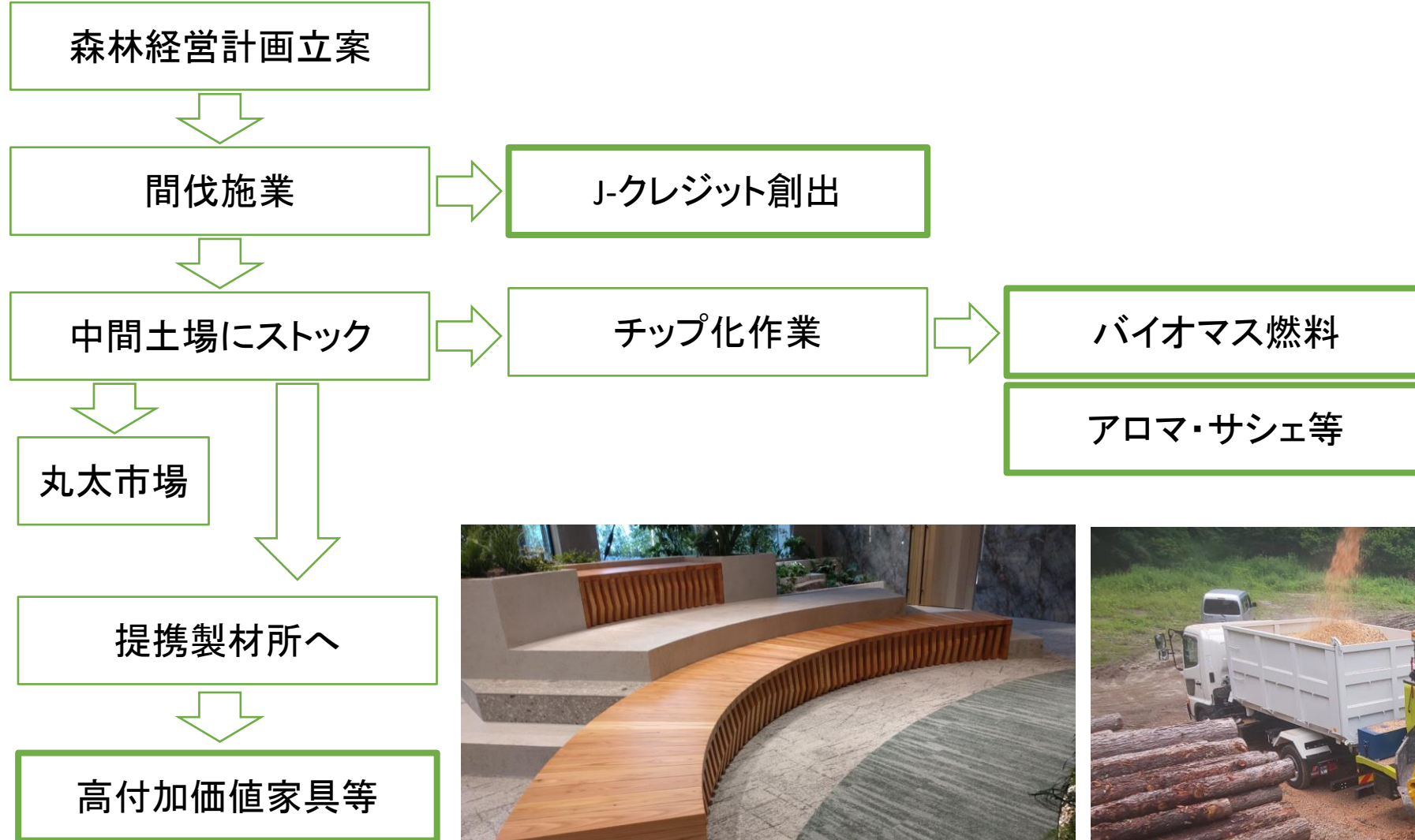


間伐前のカラマツ林



間伐後のカラマツ林

間伐材利活用の流れ



チップング作業（動画）



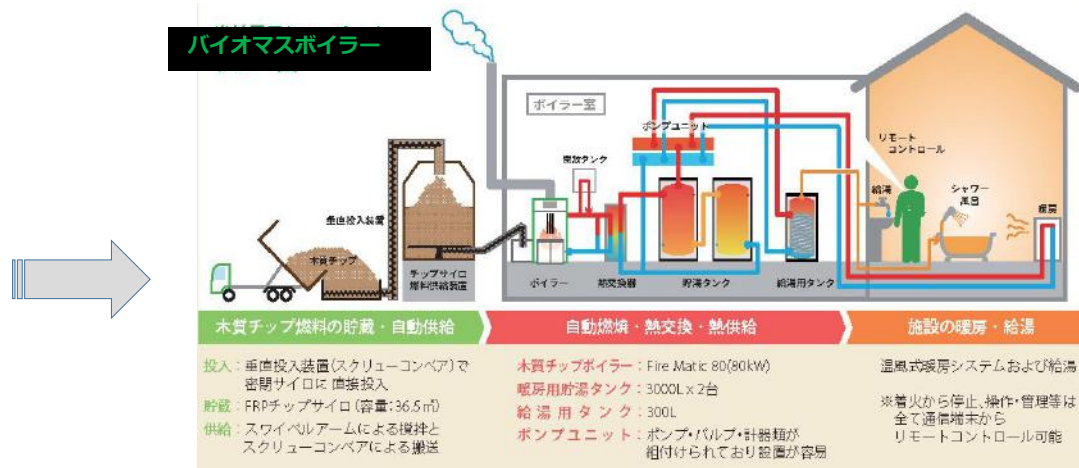
実施施策②「つかう」

■ バイオマスボイラーの導入

タウン内の施設（ゴルフ場）の化石燃料ボイラーを、バイオマスボイラーに入れ替えた。既存ボイラーは設置後40年経過。灯油を燃料とし、110t/年のCo2を排出していたが、バイオマスボイラーに換装することにより、その全てのCo2排出を抑制できる。（12,500本の成木吸収に匹敵）



既存の灯油ボイラー



■ ボイラー導入は国庫補助事業を最大限に活用

- 環境省再生可能エネルギー電気・熱自立的普及促進事業のうち、第6号事業（再生可能エネルギー事業者支援事業費）に応募し採択された。（採択率25%）
更に地方公共団体との強い連携が見られることと、地域への普及・拡大を効果的に進める計画がなされているとのことから、高い評価を得ることができ、民間企業としては非常に稀となる補助率 2/3 を活用できることになった。（交付金額：29,460,000円）
- 燃料は間伐材を利用するため、既存ボイラーの灯油代およそ400万円/年の大部分を節約でき、投資金額は9年で回収を予定する。
- 2020年3月の導入から4年近くが経過したが、大きなトラブルは無く順調に稼働している。



実施施策③ 「つなぐ」

■ 森林サービス産業の開発

森の魅力、森で過ごす時間のすばらしさを、「森で食べる」「森と遊ぶ」「森に泊まる」に集約した「もりぐらしエリア」をタウン内のセンター地区に設置。

来場いただいたお客様が広くSNS等に発信いただけたこともあり、どちらかというと閉鎖的なイメージのあった東急リゾートタウン蓼科が、地域に開かれたリゾート地として認知されるようになった。



ABOUT

もりぐらし

MORIGURASHI

TATESHINA

TOKYU RESORT TOWN
NAGANO JAPAN

森をまもり、森とともに暮らす。
深い緑に包まれて、豊かな時間と体験を。
あたらしい蓼科の森のストーリーが
ここから、はじまります。

-  **森で食べる**
グラマラスダイニング蓼科
-  **森と遊ぶ**
フォレストアドベンチャー・蓼科
-  **森に泊まる**
クラスベッソ蓼科

東急リゾートタウン蓼科に誕生した「もりぐらし」は、「森をまもり、森とともに暮らす」をコンセプトに、ひとと自然の関わり方をあたらしく見つけ直す取り組みです。カラマツをはじめとする森林資源に恵まれた蓼科の森を舞台に、地域循環型の環境づくりを進めています。

AREA MAP

Parking

Entrance

Produced by

CLASS VESSO

ZIP-LINE

FOREST ADVENTURE

Parking

DOG RUN

THE CAMP

GLAMOROUS DINING

THE ROOF

THE DECK

森で食べる

森と遊ぶ

森に泊まる

グラマラスダイニング蓼科

フォレストアドベンチャー・蓼科

クラスベッソ蓼科

GLAMOROUS DINING

FOREST ADVENTURE

class vesso

木のぬくもりに包まれた上質な空間で、ラグジュアリーな時間を過ごせるのがグラマラスダイニング。焚き火のあるテントヴィラで過ごす「THE CAMP」、ウッドデッキが心地よいプライベートテラス「THE DECK」、大勢でつどってBBQを楽しむ「THE ROOF」。それぞれのスタイルで、森のダイニングを味わいましょう。

蓼科の森を全身で感じながら遊ぶ、フランス発の自然共生型アウトドアパーク。森林をそのまま活用したパーク内では、「自分の安全は自分で守る」が大原則。森の特徴を生かしたダイナミックで難易度の高い「アドベンチャーコース」と、身長110cm以上の方なら誰でも楽しめる「キャンピーコース」が選べます。

見て、泊まって、味わう——。あたらしい別荘体験ができるクラスベッソ。昼の時間は住宅展示場、夜の時間は宿泊できる空間に。蓼科の森でまるで暮らすように、ここでしかできないスペシャルな体験ができます。個性豊かな一軒家から、あなたのお気に入りを見つけましょう。

実施施策③ 「つなぐ」

■ 森で食べる

「グラマラスダイニング」

豊かな自然に包まれた森のダイニング。

大人数で楽しむBBQから、本格的なテントを導入したグランピングまで、それぞれの楽しみ方に対応できる3種のエリア。
森林教育の場や、婚礼会場としても利用。



■ 森と遊ぶ

「フォレストアドベンチャー」

フランス発の自然共生型アドベンチャーパーク。
森を森のままに利用できる、子供から大人まで楽しめるパークとして大好評。



■ 森に泊まる

「クラスベツソ」

昼は別荘住宅展示場、夜は宿泊し新しい別荘体験ができる新業態。
蓼科の森に「まるで暮らすように」豊かな時間を過ごすことができる。
手頃な大きさとお値段で、別荘需要の掘り起しに非常に有効。



実施施策③ 「つなぐ」

外部発信

現在、もりぐらしエリアは、森の中で「食べる」「遊ぶ」「泊まる」ことによって、多くの方に森の魅力を感じていただいています。それぞれの方が、SNS等で発信をしていただいたこともあり、いままでどちらかといえば閉鎖的な別荘地が、地域の中でも存在感を増し、かつてない賑わいを見せています。

森林保全を事業活動と結び付けた取り組みは、地域の課題の一つを持続的な解決に結びつけられるとして、環境、林野の各省庁から注目を受けることとなった。

美しい森林づくり全国推進会議 / 林業復活・地域創生を推進する国民会議 連携
官民協働で拓く「森林×SDGs」シンポジウム
 ～新産業創出と地方創生につなぐ、分野横断的な森づくり・木づかい～

開催要項

【日程】2018年10月23日(火) 14:00～17:15 (開場 13:30～)
 【場所】「全国都市会館」大ホール(東京都千代田区千代田 千代田2-4-2 2階)
 【主催】美しい森林づくり全国推進会議、林業復活・地域創生を推進する国民会議
 【共催】(公社)国土緑化推進機構、(一社)日本プロジェクト産業協議会/JAPIC、
 経団連自然保護協議会、(NPO)活木活木森ネットワーク
 【後援】地方創生SDGs官民連携プラットフォーム、全国森林組合連合会、
 (一社)全国木材組合連合会、(一社)企業と生物多様性イニシアティブ、
 (一社)グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン、木材利用システム研究会

JAPIC
 Japan Project Industry Council

近年、地球規模での持続可能な社会づくりに向けて、企業等において「持続可能な開発目標(SDGs)」への関心が高まりを見せています。また、我が国においても政府一体で策定した「SDGs実施指針」の策定を受けて、官民への取り組みも視野が広がっています。

こうした中、国連森林フォーラム(UNFF)が2017年1月に策定した「国連森林戦略計画2017-2030」では、持続可能な森林経営を通して、SDGsの17目標のうち主に14目標の達成に貢献できることが示され、また国際食糧農業機関(FAO)は、「持続可能な木材利用」を通して8目標の達成にできることを示し、また我が国の「SDGs実施指針」でも、8目標で森林・林業に関する施策が示されています。

また、2017年度にSDGs推進本部が創設した「ジャパン賞(内閣総理大臣)」には、森林総合産業の構築等に取り組んだ2018年度に選定がはじまった「SDGs未来都市」も、森が活かされた自治体が多く選定されるなど、森林を核にしたSDGs

そこで、2030年を見据えて、SDGsの視点から多面的価値・意義を再検証するとともに、主要OECD諸国を培ってきた我が国ならではの森林を活用した新産業創出を中核とした分野横断的なSDGsのあり方を議論する

- 「プログラム」
- 主催者あいさつ
出井 伸之 (美しい森林づくり全国推進会議 代表)
矢野 龍 (林業復活・森林再生を推進する国民会議 前)
 - 来賓あいさつ
教元 幸司 (林野庁長官)
 - 基調報告「森林×SDGsのガイドラインへフォレスト
川廷 昌弘 (株)博報堂DYホールディングス CSRグループ推進部

国際ホテルストラテジー
 2020. 2.18(金) 21(日) 10:00-17:00 (最終日16:30まで)
幕張メッセ
 無料 便利でお得なパスのご案内

フードケタリングショー
 2020. 2.18(金) 21(日) 10:00-17:00 (最終日16:30まで)
幕張メッセ
 無料 便利でお得なパスのご案内

厨房設備機器展
 2020. 2.18(金) 21(日) 10:00-17:00 (最終日16:30まで)
幕張メッセ
 無料 便利でお得なパスのご案内

トレンドセミナー ※2020年12月15日(金)開催の予定です。

インバウンドから外食・宿泊向け運営戦略まで幅広いテーマで開催!!

時間	2月18日	2月19日	2月20日	2月21日
11:00-11:40	観光業に期待 「観光業」が経済の成長にどう貢献するか 代表者 佐藤 誠一	ホテルの市場動向 「観光業」が経済の成長にどう貢献するか 代表者 佐藤 誠一	サービス産業で支えるSDGs 「観光業」が経済の成長にどう貢献するか 代表者 佐藤 誠一	「観光業」が経済の成長にどう貢献するか 代表者 佐藤 誠一
12:00-12:40	アジアを多文化に 「観光業」が経済の成長にどう貢献するか 代表者 佐藤 誠一	人材の活用と人材の確保 「観光業」が経済の成長にどう貢献するか 代表者 佐藤 誠一	「観光業」が経済の成長にどう貢献するか 代表者 佐藤 誠一	「観光業」が経済の成長にどう貢献するか 代表者 佐藤 誠一
13:00-13:40	多文化に期待 「観光業」が経済の成長にどう貢献するか 代表者 佐藤 誠一	「観光業」が経済の成長にどう貢献するか 代表者 佐藤 誠一	「観光業」が経済の成長にどう貢献するか 代表者 佐藤 誠一	「観光業」が経済の成長にどう貢献するか 代表者 佐藤 誠一
14:00-14:40	「観光業」が経済の成長にどう貢献するか 代表者 佐藤 誠一	「観光業」が経済の成長にどう貢献するか 代表者 佐藤 誠一	「観光業」が経済の成長にどう貢献するか 代表者 佐藤 誠一	「観光業」が経済の成長にどう貢献するか 代表者 佐藤 誠一
15:00-15:40	「観光業」が経済の成長にどう貢献するか 代表者 佐藤 誠一	「観光業」が経済の成長にどう貢献するか 代表者 佐藤 誠一	「観光業」が経済の成長にどう貢献するか 代表者 佐藤 誠一	「観光業」が経済の成長にどう貢献するか 代表者 佐藤 誠一

蓼科で生まれて広がる「もりぐらし」



環境先進で地域をひらく

「もりぐらし」の取り組みが、地域を活性化させている。また、環境先進地としての魅力をアピールしている。

「もりぐらし」の取り組みが、地域を活性化させている。また、環境先進地としての魅力をアピールしている。

バイオマスボイラーで経費削減



「森林資源を活用した観光」推進に向けたマッチング・セミナー

「森林資源を活用した観光」推進に向けたマッチング・セミナー

「森林資源を活用した観光」推進に向けたマッチング・セミナー

平成29年12月15日(金) 10:30～16:40 (受付:10:00開始)

会場 農林水産省(7階)

概要 農林水産省(7階)で開催される。農林水産省(7階)で開催される。

内容

- 【第1部】○基調報告(観光庁 長官等)
- 事例紹介(農林水産省(7階)で開催される)
- 【第2部】○ショートプレゼンテーション(観光事業者、農業者、林業関係者)
- グループ相談会(観光事業者、農業者、林業関係者)
- パネル展示・イベント配布・個別相談会

主催 林野庁

お問い合わせ先

(公社)国土緑化推進機構
 東京都千代田区千代田2-4-2
 TEL: 03-3262-8437
 E-mail: hokurika@kankyo.or.jp

「もりぐらし」の地域への展開

■ なぜ脱炭素なのか、なぜバイオマスなのか

近年、気候変動が原因と考えられる異常気象が世界各地で多発しています。世界全体の平均気温の上昇を1.5℃の水準に抑えるために、CO₂（温室効果ガス）の排出量を2050年ころまでに実質ゼロとすることが必要とされている。日本でも2020年11月に衆参両議院にて「気候非常事態」を宣言し、さらに野心的な目標として2030年度に2013年度比46%の温室効果ガス削減を目指すことを表明する等、世界中をあげて脱炭素を指向する動きが広がっています。

地域では何ができるでしょうか？

温室効果ガス排出削減を目指す方法はたくさんあります。太陽光発電、水力発電、再エネ由来水素、合成燃料、地中熱・・・
地域特性に合わせた脱炭素を考えた場合、

“私たちの地域には豊かな森があります”

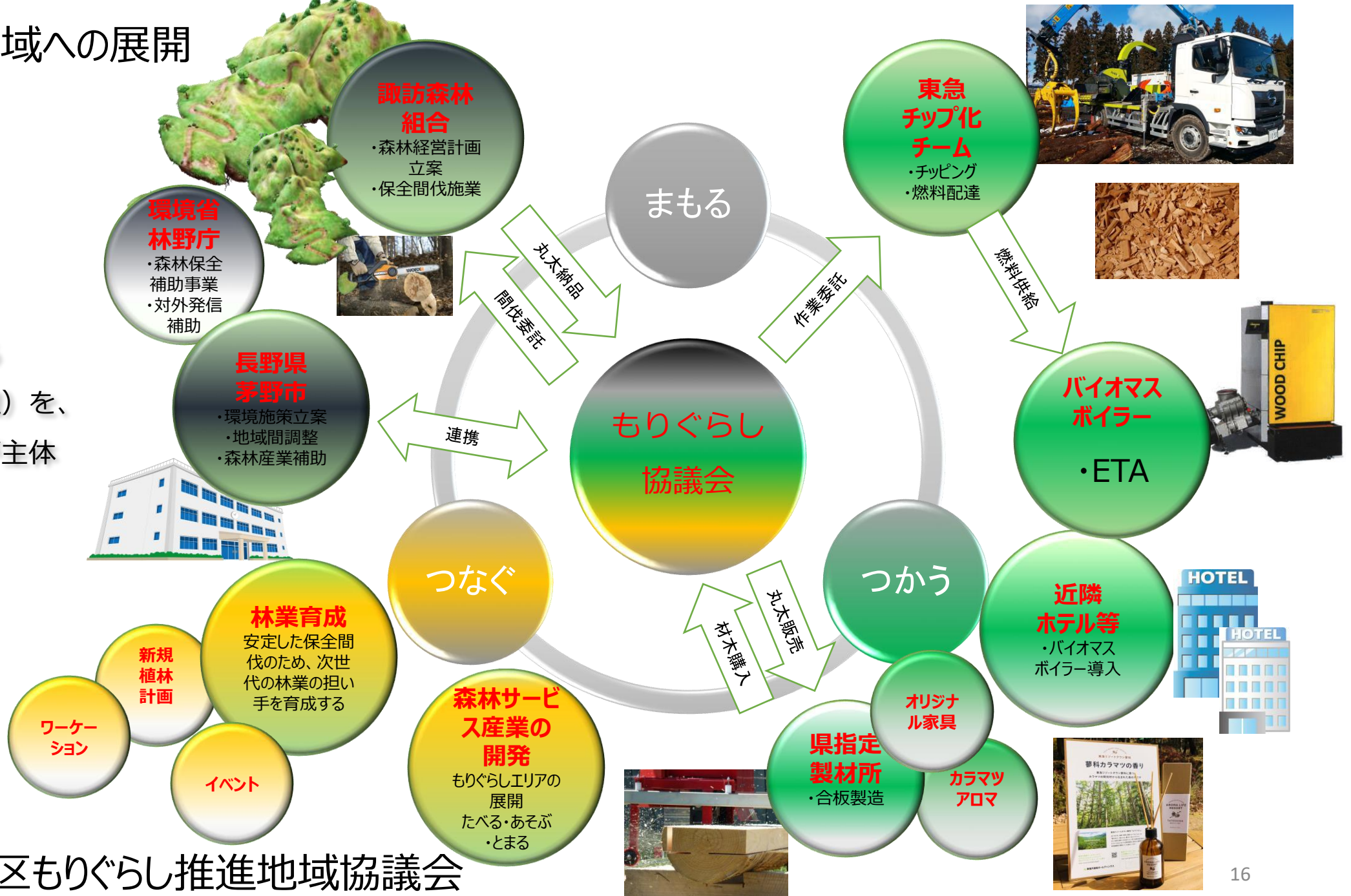
かつて私たちは森に入り、材木を切り出したり、薪や炭を作ったりと、暮らしに密接した役割を森は果たしていました。しかし今は燃料事情も建材事情もライフスタイルも変化し、森は放置され荒廃しています。保全間伐を行うことによって森は健全に生まれ変わります。今こそ再生可能資源である「木質バイオマス」をエネルギー源として有効に利活用し、次の世代に渡すことのできる、「安全で美しく実り多い森」を地域に広げていきたいと考えます。

“地域の自然資源を最大限に活かす、後世につなげる”



「もりぐらし」の地域への展開

概ね50km圏内の
 地域の人、企業で
 木質バイオマスの
 すべてをまかなえる
 アライアンス（同盟）を、
 もりぐらし協議会が主体
 となり展開する。

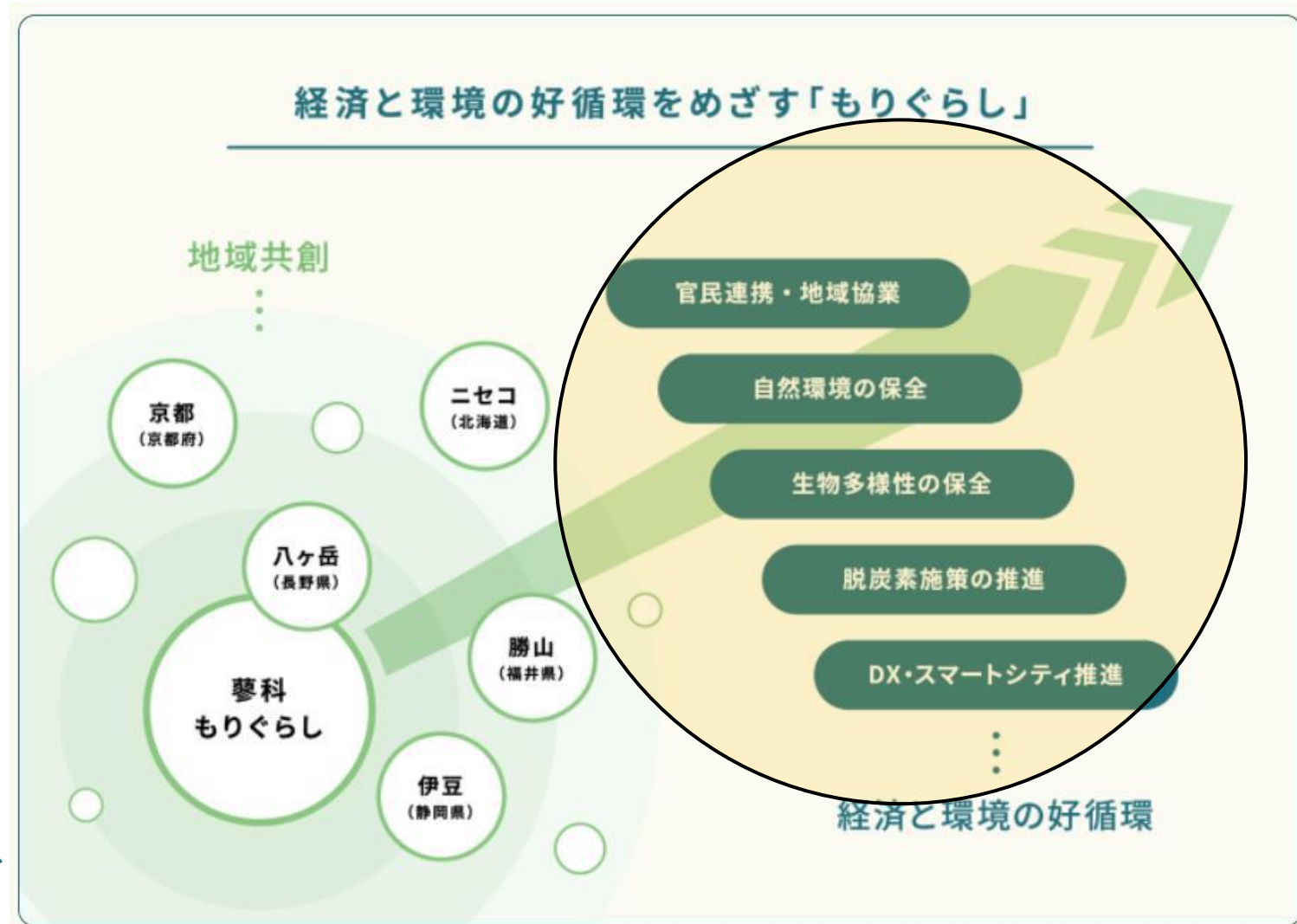


地域共創の考え方

蓼科からスタートした「もりぐらし」は、その活動を周辺地域へと広げ、現在では東急リゾート&ステイのSDGsブランドとして、全国展開の取り組みを加速させています。

地域とともに歩むためには、共通の価値を生み出すパートナーとして地域を捉える視点が大切です。私たちは地域の宝に光をあて、官民連携や地域協業を進めながら、地域の課題と向き合い、森林保全によるレジリエンス強化、サステナブルで質の高いインフラ構築などの課題解決に取り組みます。

私たちがめざすのは、地方創生と事業活動を両立させ、グリーン社会の実現によって経済と環境の好循環を生み出すこと。そのために、さまざまな地域で、共通価値の創造に向けた取り組みを推進していきます。



東急不動産株式会社、東急リゾート&ステイ株式会社、長野県茅野市と 一般社団法人諏訪広域脱炭素イノベーション協会との地域循環共生圏に関する 包括連携協定を締結

地域との連携を深め持続可能な循環共生型の脱炭素社会の創造を目指す

<協定の連携内容>

次の事項について連携し協力することとしています。

- (1) 森林資源を核とした持続可能な地域循環（もりぐらし）の推進に関すること
- (2) S D G s、カーボンニュートラルの推進に関すること
- (3) 再生可能エネルギーの地産地消に関すること
- (4) 防災・減災のまちづくりの推進に関すること
- (5) 安全・安心で快適な暮らしの実現に関すること
- (6) 高齢者・子育て世代に配慮したまちづくりの推進に関すること
- (7) 魅力ある産業・サービスの創出に関すること
- (8) 交流・関係人口の創出及び移住・定住の促進に関すること
- (9) その他本協定の目的を達成するために必要な事項に関すること

これからのもりぐらしが目指す事



官民連携・地域協業

- バイオマス燃料供給センターの開設
- 茅野市直営温浴施設へのバイオマスボイラー導入コンサルティング
- 周辺観光地へのバイオマス展開
- 森のようちえん誘致→野あそび保育ささはら連携
- 諏訪広域六市町村で地域循環共生圏を実現

自然環境の保全

- 第二期森林経営計画（5か年）の立案→諏訪森林組合協業
- 間伐実施地への植林
- 広葉樹林の利活用
- 自然環境教育イベントの実施→里山整備補助事業を活用し、間伐体験・ブッシュクラフトイベント常設検討等
- 森里川海イベント

生物多様性の保全

- 30by30アライアンス参画
- OECMルールメイク
- OECM実施施策
- 生態系調査→地域環境計画協業
- いきものマップ作製
- BIOME活用

脱炭素施策の推進

- 森林×脱炭素チャレンジ継続
- J-クレジット継続申請→都市ユニット協業
- FSC認証林の取得

DX・スマートシティの推進

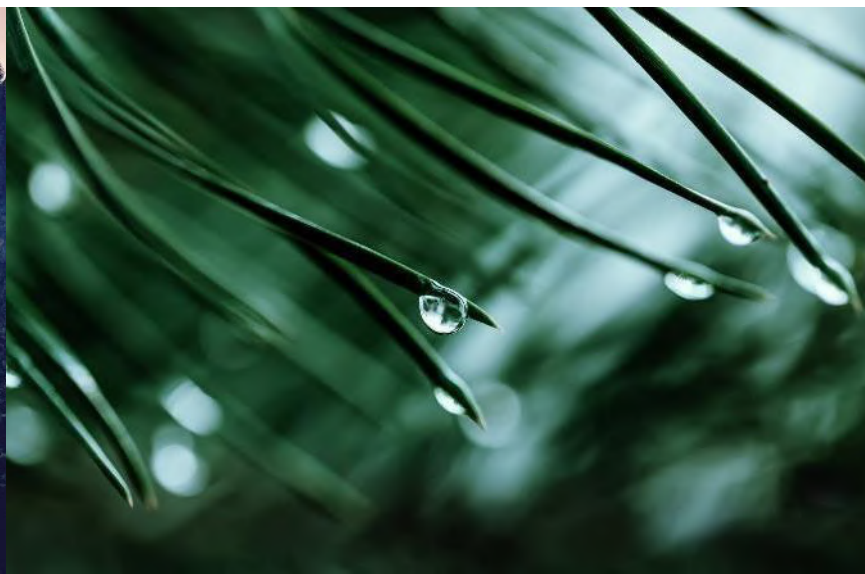
- WOTA導入計画の継続（水道事業のLCC圧縮検討）
- VPP（VIRTUAL POWER PLANT）導入計画検討
- 自動運転コンピューター導入検討
- ドローン配送
- ゼロエミッション別荘群（個々の建物が自然エネルギーをフルに活かす）

大事なこと



地球温暖化対策とか、SDG sとか、なかなか身近な事として感じられません。
でも、地域の資源を地域で有効に活用して、地域経済を循環させる。環境を良くして社会課題を解決していく。
これもSDG sの立派な一つの実践なのです。

結果として、森が豊かになり、その森を、地域にかかわるすべての人々の、残すべき財産としていくことができる。
暮らしを支える豊かで美しい自然を守り共生する、人間らしいライフスタイルを再構築していく。
これこそが、「もりぐらし」の考える大切な願いです。



ありがとう ございました

発表者名

東急リゾート&ステイ株式会社

地域創造統括部

徳田 圭太

Keita.tokuda@tokyu-rs.co.jp

もりぐらしWEB-SITE

morigurashi.com



WE ARE GREEN
価値を創造し続ける
企業グループへ



東急リゾートタウン蓼科「もりぐらし」

「東急リゾートタウン蓼科」は、四季折々の体験が楽しめる森のリゾートとして、長きにわたって自然との共生を続けてきました。近年は、住まい方と働き方に多様な関係性が生まれ、リゾート地での定住や二地域居住など、選択肢が広がっています。そして、環境配慮やSDGsへの取り組み、別荘オーナーの高齢化問題など、地域が抱える社会課題とも向き合うなかで、駅からのアクセス改善や、バイオマスボイラーの導入を進め、先進的なリゾートとして進化しています。



株式会社東急リゾートサービス
資産企画統括部 資産管理部
(所属は取材時)

徳田 圭太さん

Message

リゾートライフを通じて、森の魅力に触れ、森で過ごす素晴らしいさを感じていただく「もりぐらし」。さまざまな恩恵を与えてくれる森を守るため、私たちは環境保全に取り組んでいます。蓼科の宝である森を維持するために間伐を行い、産まれた間伐材をチップ化し、バイオマスボイラーの燃料として活かす資源循環。地域内でのアライアンスを確立することで、事業性を確保しながら地域が抱える社会課題を解決し、森も地域も企業も元気になる。CSV（共通価値の創造）の考え方で、サステナビリティを体現できるよう取り組んでいます。